

認知症と鍼治療～予防と治療～

認知症は脳が何らかの原因で障害され、様々な症状が起きます。年齢を経ることによる「物忘れ」とは違い、症状が進むにつれて日常生活にも支障をきたすようになります。現在、65歳以上の高齢者のうち、認知症の割合は15%と推計されており、軽度認知症を含めると4人に1人が認知症とその予備軍となる計算です。

中核症状と周辺症状

認知症の症状には、中核症状と、周辺症状があります。

中核症状は、脳の細胞が死んでしまう事によって起こる症状です。その代表は記憶障害で、直前に起きたことは忘れてしましますが、過去の古い記憶はよく残るのが特徴です。しかし、症状の進行と共に、その記憶も失われることが多いようです。また、筋道を立てた思考ができなくなる判断力の低下、時間や場所、名前などが分からなくなる見当識障害などがあります。

周辺症状は、中核症状以外に

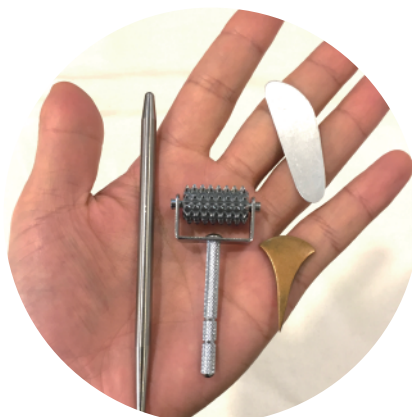
「周辺」として起こる症状で、妄想を抱いたり、幻覚を見たり、暴力をふるったり、徘徊したりするといった精神症状が現れます。同時に、うつや不安感、無気力といった感情障害が起こる場合もあります。周辺症状はその人の性格や環境、人間関係などが絡み合っただけ起こるものではなく、そのため、症状は人それぞれ異なり、また接する人や日時によっても大きく変わってきます。こういった周辺症状は認知症を有する方の80%にみられます。

擦過鍼による認知症予防

当院では、認知症予防や、周辺症状緩和を目的とした治療に取り組んでいます。刺さないでさする鍼「擦過鍼」を使用し、1回10分程度、手足や背中、頭などを気持ちの良い刺激でさすります。皮膚を摩擦することによって、脳内の血流を増加させ、自律神経のバランスを調整し、神経伝達物質である「ドーパミン」という物質の分泌を増やします。ドーパミンは、運動機能や認知機能に作用するため、その増加は認知症の予防や周辺症状の緩和に繋がります。

擦過鍼は、もともと、夜泣きやぐずり、便秘など、小児に

する治療法として発展してきた刺激方法です。「周囲に理解してもらえない」「自分の思いを伝えられないもどかしさ」「漠然とした不安」など、認知症の方のイライラや、不安にも効果があると考えられます。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。



▲擦過鍼で用いる道具

縁活力フェに参加しました

11月15日に医師会主催の多職種連携「縁活力フェ」に参加しました。医師、看護師、理学療法士、介護事業者、民生委員、行政スタッフなど、名張市のこれからの医療・介護に携わる人たちが100名程集まり、救急医療について・看取りについて・在宅医療についてなど議論しあう貴重な時間となりました。

現在の医療、介護の現場では職種間のコミュニケーションが少なく、利用者・患者さんに対して、他の職種の方がどのような関わり方をしているかを知るのが困難な状態です。こうした場で、様々な職種が、顔を合わせ意見を交換し、連携して行く事が大切な事です。

これからも機会があればこういった集まりに参加し、他の職種との連携を強め、よりよい医療、介護の環境を作っていきたいと思います。



小児鍼

1月26日(月)
13:30~15:00

親子の触れあい・スキンタッチ健康法

- ・参加費：500円
- ・持ち物：金属スプーン・歯ブラシ
- ・足や背中を出しやすい服装でお越しください。

関西発祥の小児鍼は、昔から夜泣き・虚弱・アトピーなどに効果があり、子供の健やかな成長を支える方法として受け継がれています。

「はり」といっても、刺すのではなく、皮膚を撫でたり、さすったり、とても気持ちの良い刺激で、子供の自律神経を整え、情緒を安定させます。

0歳から10歳のお子様におすすめです。

開催場所：土の香ハラペコあおむし
名張市上小波田 1810-6

申し込み：一鍼灸院(定員に達し次第締め切ります)
0595-44-6776 まで

